

## 第 6 回新しい資本主義実現会議 意見書

2022 年 4 月 28 日

株式会社経営共創基盤  
IGPI グループ会長 富山和彦

- デジタル田園都市構想のリアルサイドは「一極集中から多極集中へ」
  - －東京の過剰集積による生産性と幸福度低下は必然的⇒域内成長率、可処分所得額、出生率いずれも長期にわたり全国最低レベル⇒一極集中の緩和は必須かつデジタル革命でより容易に
  - －他方、次の選択肢がリアルサイドで「多極分散」になってしまうと、少子高齢化×人口減少社会を克服する豊かで持続可能な地方経済社会は作れない⇒21 世紀版の集住モデル（コンパクト&ネットワーク）の実現
  - －GDP の 7 割を占めるローカル経済圏は今後の日本経済成長（生産性と所得向上）の本丸⇒ローカル・デジタルフォーディズムの実現へ
  
- 新しい公共財、新しい社会的共通資本の時代における政府と市場の関係性
  - －古い時代の政府と市場の関係性をどう超えるか？
  - －政府の失敗（少数エリートの知性の限界と計画経済の挫折、動機づけなき経済の失敗⇒社会主義の挫折、大きな政府の挫折）

- 市場の失敗（変化し拡大する外部性への対応の限界、私的所有と公共的使命の相克、市場の長期的理性の限界）
- DX と GX のさらなる変化の時代においていずれも失敗するリスクはより大きくなっている
- 古い大きな政府の時代への懐古ではなく、新しい時代環境における政府と市場の関係の模索、創造を始動、継続すべき
- 新しい公共財、社会的共通資本への投資・蓄積を動機づけることと、経済効率的な資源配分を動機づける（アダム・スミスの市場機能）ことと、イノベーションを希求する探索発見の欲求（シュンペーター的な市場機能）を動機づけることを、持続的整合的に機能させる仕組みの創造
- 新たなルールデザイン力、制度創造力が問われている⇒PPP やコンセッション等と同じくベネフィットコーポレーションもその一つ、一部の大学のように社会的信用度の高い非営利組織も担い手候補の一つ